

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100429		
法人名	社会福祉法人 青森令和会		
事業所名	グループホームきらら篠田		
所在地	青森市篠田3丁目20-23		
自己評価作成日	令和元年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和1年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は入居者と同じ目線に立ち、アットホームな雰囲気の中で家族の一員と感じていただけるように接している。入居者一人ひとりの力を把握しており、日常生活の中で発揮できる機会を作り、入居者同士が助け合って生活できるように見守っている。 また、地域の行事に参加したり、地域の方々にホームの行事に参加していただくことでホームについて理解を深めてもらっている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時の思いを引き継ぎ、家庭的で安らぐ環境の中、地域を大切に思い、利用者一人ひとりの個別ケアを実践し、利用者が生き生きと自立支援に向けた生活を送ることができるように取り組んでいる。 ホームの納涼祭には地域住民の参加が多数あり、町内会の旅行や新年会に参加する等、地域との繋がりを大切にしている。また、町内の災害訓練に参加し、水害等の様々な災害を想定した訓練を実施している。ホームの避難訓練にも地域住民が参加しており、職員からの意見や消防署、市から指導を受けながら、利用者の安全確保に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、申し送りの際に唱和し、理解して実践に繋げるように努めている。	平成30年6月に経営者が代わり、以前からの地域との交流等を引き継ぎ、令和元年10月から地域密着型サービスを理解した法人理念を作成している。職員は毎日唱和して理念を共有し、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加し、交流の場を設けている。2ヶ月に1回、回覧板に広報紙を載せていただき、理解を得られるように努めている。	ホームの納涼祭では地域の方々の参加が100名程あり、地域の祭りとして住民が楽しみにしている。町内会に加入し、町内会の旅行や新年会、町内の防災訓練等に積極的に参加し、地域の一員として日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報紙を作成したり、運営推進会議を通じて、認知症高齢者について説明している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の日々の生活状況や行事等の報告をし、参加者より意見等を聞き、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、法人が変わってから委員も増え、場所も地域の市民センターを借りて開催している。会議では利用者の状況やホーム内の取り組みを報告し、様々な意見をいただき、サービスの質の確保や向上に役立てている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、ホームの実績状況を報告し、市から意見等があった場合は実践、改善等を行っている。	地域包括支援センター職員は必ず運営推進会議に出席しており、ホームの実情を理解している。市とは何かあった際には、気軽に相談できる関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、内部研修を行い、身体拘束について職員が理解する場を設け、身体拘束をしないケアを目指している。	身体拘束は行わない方針であることを、契約書や重要事項説明書に明記している。「身体拘束廃止委員会」を設置しており、マニュアルを整備し、やむを得ず身体拘束を行う場合には、家族の同意や経過観察等を記録に残す体制となっている。職員は内部、外部研修へ参加し、身体拘束を行わない姿勢で日々のケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加後、内部研修で報告して高齢者虐待について理解し、虐待のないケアの実践に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い、権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者が契約や重要事項説明書について留意点を十分に説明し、不明な点があれば都度、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱を設置しているが、あまり活用はされていない。家族等からの意見や要望があった際は、すぐに改善するように努めている。	家族等が意見や苦情を出しやすいよう、重要事項に苦情相談窓口を明示して説明している。玄関に意見箱を設置し、意見や苦情を出しやすいようにしている。意見や要望は職員間で話し合っており、日々のケアに反映される取り組みを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3ヶ月毎に職員との個人面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月の職員会議では職員が意見を出せるように取り組み、日常的な会話からも職員の意見や提案を聞いている。また、毎朝の申し送りを合同で行っており、職員の意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や日々の就業実績を通して職員個々の能力を把握し、各自が働きやすいような職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の能力を把握した上で、その人に合う外部研修の参加を促している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員同士の交流の場を設け、職員個々の能力のとサービスの質の向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にこれまでの生活歴や習慣を聞き、できる限り今までの生活を送れるよう、コミュニケーションを図っている。また、入居者が不安にならないようにニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や意見があれば、いつでも話を聞き、入居者を一緒に支える関係を築き、サービスの向上に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の状態等を把握した上で、職員間で情報を共有し、ケアマネジャーと相談して支援を決め、実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士との関係を築いている	入居者個々の力量や性格を把握し、暮らしを共にする者同士として助け合い、生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は面会の際、入居者の日々の生活状況を伝え、受診対応時は家族に付き添っていただいて状態を把握し、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの関係を継続できるよう、面会はいつでも気軽に来ていただけるようにしているほか、馴染みの場所への外出支援等にも努めている。	利用者が安心して生活できるよう、アセスメントや関係者からの情報収集を行い、馴染みの人や場所を把握し、関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できる限り居室に籠りきりにならないような支援を心がけ、孤独を感じないよう、職員が配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて家族へ連絡している。相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを通じて、入居者の意向やニーズを汲み取り、ケアに繋げ、意思疎通が困難な入居者は家族に意向を聞き、実践している。	日常生活の関わりの中で利用者の思いや暮らし方の希望、意向を把握するように努め、家族や関係者から情報収集も行っている。意思疎通が困難な方は表情や行動を観察し、全職員で話し合い、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や習慣、環境等を聞き、これまでの生活環境とあまり差がないような暮らしができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの力を活かし、楽しみながら、入居者個々の1日の過ごし方を尊重し、生活できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で情報を共有し、必要なケアを把握した上で介護計画を作成し、実践に繋げ、状態の変化があった場合にはカンファレンスを行い、見直しをしている。	担当職員は利用者毎に定期評価を作成して提出しており、利用者や家族からの意見や希望を確認し、全職員で話し合って個別具体化した介護計画を作成している。状態や希望の変化時は随時、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録し、職員間で共有して実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1つの支援に捉われず、職員の様々な意見を尊重し、チームで柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の敬老会や日帰り旅行に参加したり、地域資源を活用し、楽しみながら地域の中で暮らす工夫をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を取り、月2回の往診や急変等に備えて24時間連絡が取れるようにしている。また、入居者や家族の希望により、入居後もかかりつけ医の受診対応を行っている。	入居前の受診状況を把握し、希望に応じて受診を支援している。協力病院の往診も可能であることを説明し、選択してもらっている。利用者や家族が希望する医療機関の受診を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がいなかったため、往診時に都度報告し、状態変化があった場合等は、FAXで報告して指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は情報を提供し、入院中も医療機関と情報交換を行い、早期に退院できるように相談を行い、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より終末期について説明を行い、その後も状態の変化に応じて話し合いの機会を設け、ケアの方向性を決めている。また、職員間でも情報を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	ホームとしての指針を作成しており、方針を明確にし、入居時に話し合っている。状態の変化に応じて家族や関係者、医療機関等と再度意思統一を図り、支援していく体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部講師を招き、応急手当の研修や初期対応の訓練を行い、実践で活かせるように備えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害や昼夜、それぞれを想定した避難訓練を定期的に実施している。地域住民の協力を得て、災害発生時には駆けつけてくれるよう、協力体制を築いている。	利用者と職員で一緒にいざという時に適切な避難誘導を行えるよう、年3回、地域住民の協力のもと、訓練を行っている。災害発生時に備えて、地域住民へ協力を呼びかけ、非常用の食糧や物品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、声がけや介助の際の対応に細心の注意を払うように努め、言葉が理解しにくい方には表現方法を変えて対応している。	利用者への対応は言動を否定したりせず、受容的な姿勢を心がけている。介助時の声がけは利用者の羞恥心に配慮して行っている。ホーム全体で日々の確認や更なる向上に向けた取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で選択肢を与える等、自己決定しやすい問いかけを工夫して、思いや希望を表しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活は入居者のペースを尊重している。その日の希望に合わせた支援を個別に行い、ホームで決まっているスケジュールはあるが強制はしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれを継続できるよう、こだわりを尊重し、季節感も考慮している。また、身だしなみには十分に配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回、入居者のお好みメニュー日を設け、好みの食事を提供している。また、食後の片付け等も職員と一緒にしている。	給食委員会が1ヶ月の献立を作成しており、簡単な下準備やテーブル拭き、簡単な配膳、下膳、食器拭き等を一緒に行っている。食事の際は和やかでさりげない介助や声がけ、食器の位置換えを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合わせた方法で食事を提供している。摂取量の少ない入居者には、補食や好みの物で栄養や水分を提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者一人ひとりの状態に応じた介助や声がけを行っている。義歯の入居者は夜間に洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握や習慣を活かし、食事の前後等に自尊心を傷つけないよう、声がけや誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	排泄表を活用し、紙オムツを利用している方でも日中はトイレ誘導をして、自立に向けた排泄支援を行っている。誘導時や失禁時の声がけは、周りの人に気づかれないように配慮して行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に便通に良い物を取り入れたり、朝起床時には牛乳や乳酸菌飲料等を提供している。ラジオ体操等で体を動かしてもらっているが、便秘時はその人に合った薬剤を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	特に希望がなければ、週2回入浴できるように支援している。入浴中は入居者個々に応じたコミュニケーションを図り、楽しく入浴できるように支援している。	週4回入浴日を設けており、週2回以上入浴できるように体制を整えている。利用者一人ひとりの入浴習慣や希望、体調、羞恥心に配慮しながら、利用者個々に合わせた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	臥床時は明るさや温度を調整し、気持ち良く休めるように配慮し、生活習慣やその時々状況に応じて安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はいつでも閲覧できるよう、入居者個々のケースにファイルしている。誤薬等がないように複数の職員で確認を行ってから服用してもらっている。また、症状の変化の観察にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かして、入居者個々の生活歴から役割を見つけ、生き生きと楽しく生活できるように支援している。また、レクリエーションを一緒に楽しみながら行い、気分転換できるように工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望があれば一緒に出かける機会を設けている。また、家族の協力等で外出支援を行ったり、入居者の行きたい場所を把握するように努め、実現できるように支援している。	利用者の行きたい場所を把握しており、楽しみや気分転換に繋がるよう、町内の散歩や宵宮等、日常的に外へ出る機会を設けている。また、年間計画に外出や外食の支援を設け、ADLの低下とならないように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入したい物がある場合は買い物ができるように支援している。お金を所持していないと不安になる入居者に関しては、入居者と家族と相談の上、自己管理ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡したい時や贈り物が届いた時等、電話の要望があれば対応している。年賀状等の要望があれば、同様に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間に生活感や季節感を取り入れた装飾をし、工夫している。室温調整にも十分に配慮し、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	ホールや玄関には季節を感じる装飾品や幼稚園児からのプレゼントを飾っている。職員の話し方は穏やかで、テレビや音楽等の音量、温湿度も適度となっており、利用者が心地良く過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間にソファや椅子を設置して好きな場所で自由に寛いだり、談話したり、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に筆筒等、馴染みの物や使い慣れた物を持ち込んでおり、家族の写真等を飾り、居心地良く過ごせるように工夫している。	馴染みの物を持ち込んでおり、利用者個々に合った居室となっている。ベッド等の家具の配置は利用者に合わせて配置しており、利用者にとって安心して過ごしやすい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の動線の障害になるようなものを設置せず、安全性を確保しながら、文字や絵等で大きな目印を設け、できるだけ自立した生活を送れるように工夫している。		